

み  
と  
め  
あ  
い



た  
か  
め  
あ  
い



そ  
だ  
ち  
あ  
い

～養護と教育の充実～

# 認定こども園みつみ

社会福祉法人みつみ福祉会

認定こども園みつみの前身は、定員60名の保育所でした。小川校区岩屋で昭和45年4月から38年間、保育を実践してまいりましたが、丹波市の「認定こども園構想」のもとに平成20年、小川（みつみ）、久下（ながの）、上久下（こぼと）校区の3保育所を統合、山南町谷川に場所を移して、定員150名の保育所となりました。

平成22年4月には周辺3校区の公立幼稚園を統合し、丹波市では「吉見こども園」とともに私立幼稚園の認可を取得し、定員190名（長時間170名、短時間20名）の「認定こども園みつみ」として保育を実践しているところです。

上に見えているみつみの園章には、「小川」「久下」「上久下」の校区を3つの積木に見立てて、それぞれ赤（命）、黄色（心）、緑（自然）をイメージしました。「さんかく」、「まる」、「しかく」は、こどもひとりひとりそれぞれ個性をもっていて、「みんな違っていいんだよ」というメッセージを込めています。ピンクの丸は、「養護的な配慮：保育者の愛情」を示し、緑の丸は、「教育的な配慮：こどもたちの自立」を示しました。

私たちの基本理念は「みとめあい たかめあい そだちあう」保育教育の実践です。子どもたちへの関わりのみならず、保育者自身、保護者、地域の皆さまともお互いに研鑽しあいながら、子どもたちの最善の利益を求めていきたいと思っています

# 認定こども園みつみの概要

## 1. 地域の概要

### 丹波市（たんばし）

平成16年11月1日に兵庫県旧氷上郡の6町（氷上町、柏原町、青垣町、春日町、山南町、市島町）が合併し、新設。

兵庫県の東部に位置し、瀬戸内海と日本海のほぼ中間部に位置する山間にある。加古川水系の最上流、由良川水系の最上流に位置し、北海道と末端部を除けば日本で一番低い中央分水界がある。標高100m前後の盆地に、田畑が広がり、霧の出ることも多い。このように非常に自然に恵まれた地域である。

### （1）園の概要（沿革）

昭和45年4月1日 山南町岩屋で60名定員の保育所「みつみ保育園」を開設

平成20年4月1日 山南町谷川に移転、こぼと保育園（上久下地域）、ながの保育園（久下地域）の公立2保育所の閉園に伴い、150名の定員となる

平成22年4月1日 上久下小学校区の上久下幼稚園、久下小学校区の久下幼稚園、小川小学校区の小川幼稚園の3公立幼稚園の閉園に伴い、幼稚園の認可を取得し、「みつみ幼稚園」を開設、「幼保連携型認定こども園」となり、0歳児から就学前のすべての子どもたちに保育・教育を実践することとなる。長時間部定員170名、短時間部定員20名

### （2）子どもの姿

通園区域は主に山南町上久下小学校区、久下小学校区、小川小学校区の3校区となっているが、親の就労の関係から他市他町からの利用もある。近年、少子化により、地域周辺の子どもの数が減少し併せて安全面への不安から戸外遊びや群れ遊びが希薄になっている。

施設利用については、核家族化や世帯分離が多くなったことにより、乳幼児の保育所利用、とりわけ1歳児の利用が多くなっている。平成22年度より私立幼稚園を開設しており、5歳児の子どもたちを受け入れている。

## 2 教育目標

### （1）教育の基本

本園の保育・教育のバックボーンを、「認め合い・高めあい・育ちあう保育教育の実践」としている。

子どもたちには、豊かに伸びてゆく限りない可能性がある。その子どもたちが山深い丹波の豊かな自然の中での遊びを通して、自分たちで悩み、考え、協力しあいながら健全な心と体の成長を高め合い、生きる力の基礎（心情・意欲・態度）を培うことを「みつみ幼稚園」の教育の目標とし、恵まれた自然の中で「認め合い・高めあい・育ちあう心と体」を育成する。

(2) 保育教育方針

「生きる力の基礎を育む」

- ・さまざまな人との関わりを深める中で、人への信頼感と自己の主体性の形成を促す。
- ・さまざまな環境との相互作用を通して、豊かな心情・意欲・態度の育成を促す。

(3) 保育教育目標

「健全な心とからだの育成」

○げんきな心とからだの育成

心と体の健康は元気のバロメーターである。何事にも前向きに取り組める健康で健全な心と体をもった子どもに育てたい。

○やさしい心とからだの育成

自分もともだちも同じように大切に考え、相手の気持ちを理解しようとする感受性豊かな子どもに育てたい。

○がんばる心とからだの育成

ちょっとした失敗でくじけそうになってもあきらめず、最後までやり遂げるたくましい心を持った子どもに育てたい。

### 3 クラスと園児数

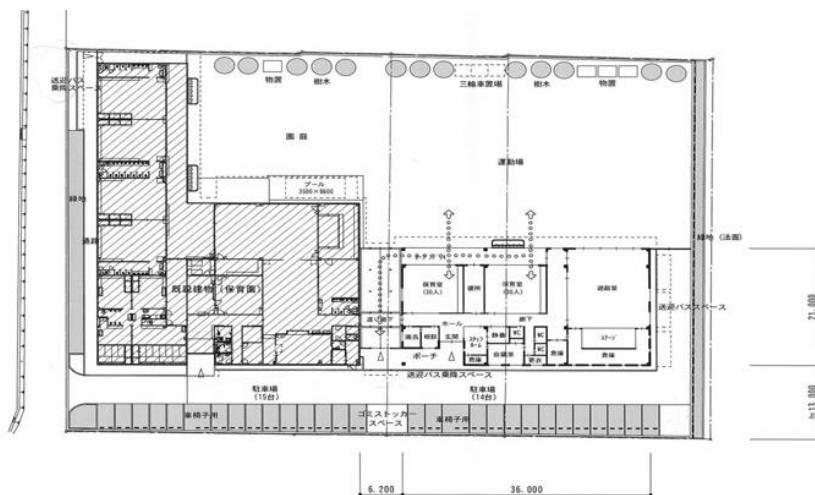
(平成23年 4月 1日) ( ) は短時間

年 齢	組 の 名 前	男 児 (名)	女 児 (名)	組 合 計 (名)	年 齢 合 計 (名)
0 歳 児	さくらんぼ	1	1	2	2
1 歳 児	い ち ご	9	9	18	18
2 歳 児	も も	10	4	14	27
	み かん	8	5	13	
3 歳 児	り ん ご	9	6	15	30
	ば な な	9	6	15	
4 歳 児	め ろ ん	12 (5)	10 (4)	22 (9)	43 (17)
	ぶ ど う	11 (6)	10 (2)	21 (8)	
5 歳 児	つ き	13 (3)	13 (6)	26 (9)	51 (20)
	ほ し	12 (5)	13 (6)	25 (11)	
男女別合計 (名)		94 (19)	77 (18)	171 (42)	171 (37)



#### 4. 保育・教育時間と生活の流れ

利用時間	長時間部		7:00～19:00	
	短時間部		8:00～14:00	
一日の日課				
長時間部			短時間部	
	0歳～2歳	3歳	4歳～5歳	
7:00	早朝保育（希望）		早朝保育（希望）	
8:00	登園・あそび（バス）		登園・あそび（バス）	
9:00	おやつ（牛乳）	午前の活動	教育課程に基づく4歳児・5歳児 月齢共通幼児教育の導入・展開 好きな遊び	
10:00	午前の活動			
11:00	0歳児から順次給食		学級活動	
12:00	おきがえ えほんのじかんなど おひるね		給食	
13:00			4歳おひるね 5歳休憩	休憩 降園準備
14:00	おきがえ		自由保育	降園 バス おむかえ
15:00	おやつ			
16:00	降園（バス） 時間によりおむかえ			
17:00	希望保育（キラキラタイム）			
18:30	延長保育（希望）			
19:00	閉園			



## 5. 職員構成と資格等

職名	氏名	性別	備考
施設長	吉見 直人	男	
<b>教務統轄</b>	赤井由紀子	女	子育て支援(主)
<b>養護主任</b>	前川 優子	女	1歳児
保育士	荻野 美加	女	0歳児(主)
保育士	高橋 礼子	女	0歳児
保育士	大地亜由美	女	1歳児(主)
保育士	畑中 優花	女	1歳児
保育士	西脇 未麻	女	1歳児
保育士	大蔵 有紀	女	2歳児(主)
保育士	大地 実紀	女	2歳児
保育士	畑 順子	女	2歳児(主)
保育士	丸山 麻美	女	2歳児
<b>教育主任</b>	待場 知子	女	4歳児
保育士	黒田 亮平	男	3歳児
保育士	湯藤 有希	女	3歳児
保育士	中村 弥理	女	3歳児
教諭保育士	下田麻記子	女	4歳児
教諭保育士	柳川瀬真衣	女	5歳児
教諭保育士	梅垣 智	男	5歳児
教諭保育士	足立 祥	女	5歳児
教諭保育士	岡林 美里	女	5歳児
<b>保育士</b>	野瀬英梨子	女	6月10日復職子育て支援
保育士	足立 愛	女	6月7日復職フリー
保育士	板谷菜美子	女	10月3日復職フリー
看護師	酒井 清子	女	看護師
栄養士	青木 郁美	女	栄養士
調理師	赤井喜美子	女	調理師
調理師	山下 典子	女	調理師
事務員	後藤 理恵	女	事務
事務員	近藤 渚	女	事務
調理員	下井 知代	女	調理師
バス	浅場万里子	女	添乗
バス	竹谷 瞳	女	添乗

## 6. 園地・園舎の面積

### (1) 園地

土地の所在：丹波市山南町谷川字天神下

種別	面積			備考
	保育所部分	幼稚園部分	計	
園舎敷地	1,539.64 m <sup>2</sup>	813.77 m <sup>2</sup>	2,353.41 m <sup>2</sup>	
運動場	829.07 m <sup>2</sup>	1,599.03 m <sup>2</sup>	2,428.10 m <sup>2</sup>	
その他	839.02 m <sup>2</sup>	781.38 m <sup>2</sup>	1,620.40 m <sup>2</sup>	
計	3,207.73 m <sup>2</sup>	3,194.18 m <sup>2</sup>	6,401.91 m <sup>2</sup>	

### (2) 園舎

構造 鉄骨造合金メッキ鋼板葺平家建 2棟

階	室	面積			備考
		保育所部分	幼稚園部分	計	
1階	保育室0～3才	278.00 m <sup>2</sup>		564.68 m <sup>2</sup>	6室
	保育室4～5才		286.68 m <sup>2</sup>		4室
	遊戯室	168.00 m <sup>2</sup>	200.88 m <sup>2</sup>	368.88 m <sup>2</sup>	ステージ 含
	便所	82.04 m <sup>2</sup>	94.80 m <sup>2</sup>	176.84 m <sup>2</sup>	
	職員室	77.00 m <sup>2</sup>	28.23 m <sup>2</sup>	105.23 m <sup>2</sup>	
	保健室	12.33 m <sup>2</sup>	9.39 m <sup>2</sup>	21.72 m <sup>2</sup>	
	その他	451.63 m <sup>2</sup>	246.70 m <sup>2</sup>	698.33 m <sup>2</sup>	
	計	1,069.00 m <sup>2</sup>	866.68 m <sup>2</sup>	1,935.68 m <sup>2</sup>	

## 7. 保育料等について

保育所の保育料については、丹波市他、保護者等の居住地の保育料算定に準じ、減免その他の取り扱いも同様とする。幼稚園の保育料は以下の通り。

保育園・幼稚園	保育料	給食費	合計
幼稚園 (短時間)	5,000円	3,200円	8,200円

保育料以外の経費については、下表の通り

その他経費

幼稚園	
教材費	1,800 円

保育園幼稚園 共通経費

保育園・幼稚園共通		
名 目	金 額	
保護者会費	300 円	
バス利用料	全児（維持費）	1,000 円
	利用児	2,000 円

保育園経費

保育園		
年齢	金額	内訳
2 歳児	370	絵本代 370 「チャイルドブックふう」
3 歳児	1,100	絵本代 400 「チャイルドジュニア」 米燃料代 700
4 歳児以上	1,120	絵本代 420 「チャイルドゴールド」 米燃料代 700

絵本等の定価は、年次により変更有

その他特別保育事業利用料

一時保育利用料			その他
年齢	9 時～16 時	左記以外時間毎	病後児保育(要申込:有料市内 1,000 円)
0 歳	3,000 円	1,000 円	子育て支援事業(要申込)
1 歳	2,500 円	500 円	延長保育(要申出:有料 1 日 200 円) 18:00～19:00 の 60 分
2 歳			
3 歳	2,200 円		10 日以上 2,000 円
4 歳以上	2,000 円		

## 8. 丹波市独自の運営費補助金等

補助金メニュー	金額設定等
保育費用補助金	短時間部利用児に対して(30 名单価-利用料)
こども園運営費補助金	@41,000*190 7,790,000
事務職員配置補助金	1,500,000
子育て支援専門員配置補助金	2,000,000
こども園通園バス運営補助金	4・5 歳児のバス利用児の半額補助

## 9. 評価と課題

幼保連携型認定こども園として1年が経過しました。養護と教育の融合を図るために何をどうしたらよいか考えながら、しかしなかなか光明が見えない中で走り続けた一年でした。そんな中で我々が今、実感していることも含め振り返りたいと思います。

まず、保育所としての養護的な専門性と、幼稚園の教育部分を包括したことで、「養護と教育の充実」を図りたいとしていた以前からの課題への認識は大きく変容しました。これまでも教育的な配慮については保育所なりに自負していましたが、やはり教育施設としての専門性、質の向上は、当面の大きな課題の一つです。幼稚園として認可を受けたことで丹波市教育委員会とのつながりが出来、指導主事によるOJTが可能になったことは、一番の収穫であったと思います。

一方で、3歳未満児保育と、3歳以上児保育の教育的な関わりの差異により、滑らかな成長・発達の援助という観点から、今現在では少し希薄になっている感があり、未満児と以上児の接続についての課題があります。特に乳幼児保育の充実は、人への信頼感や自己肯定感、自尊感情、コミュニケーション力のベースとなることから、さらに深く研究する必要があります。また、3歳児の保育や、養護・教育各々の配慮の違いを業務に反映する困難さも課題となりました。

小学校との連携、接続については、冒頭で説明しているとおり、小川・久下・上久下3校区との連携・接続となるため、これまで意図しなかった交流を明確な意図を持って取り組む必要が生じています。各小学校での交流を年3回、就学予定児を対象に検討し、各小学校様には季節に応じ、無理をすることなく交流が図れるように配慮いただいています。

経営に視点を置くと、保育所運営費を幼稚園部分と按分した形となったために非常に厳しい状況となり、幼稚園の運営支援について行政と折衝を行い、その結果、幼稚園運営費の支援について一定程度の目途が立ちました。これについては丹波市のご理解とご努力に敬意を表したいと思います。

とにかく、走りながら、実践しながらこれから見えてくる課題を精査し、現場で出来る保育面での課題解決、行政に委ねる運営面での課題解決等、しっかりと視点を定めて、地域や行政とともに課題解決を図っていきたいと思っています。養護と教育、福祉と教育の融合を念頭において、「認め合い、高めあい、育ちあう」施設として保護者地域とともに成長するこども園になっていきたいと思っています。

